



from SENMAYA 千厩

白熱した試合展開で冬の運動不足を解消する参加者

寒さ吹き飛ばす熱戦展開

ソフトバレーボール大会

一関市体育協会千厩支部が主催する第19回千厩地域ソフトバレーボール大会は1月14日、千厩体育館で行われました。この大会は、36回目となるパパさん大会と38回目のママさん大会も兼ね、パパさん、ママさん、オープン、ジュニアの4部門に27チームが参加。寒さも吹き飛ばす熱戦が繰り広げられ、歓声が響きわたっていました。

競技の結果、パパさんの部でチームT、ママさんの部でさつき、オープンの部でRixsis、ジュニアの部で小梨VASS男子Bがそれぞれ優勝しました。

from ICHINOSEKI 一関



上/2000個のキャンドルで作られたクリスマスツリー
左/キャンドルや灯ろうが市役所本庁舎噴水池を美しく映し出しました

温かな明かりでスローに

冬至のキャンドルナイト

電気を消してキャンドルをともし、地球温暖化防止や省エネについて考えようと全国的に行われている「100万人のキャンドルナイト」は12月22日、一関地域の2カ所で行われました。市の地域おこし事業を活用し、一関地球温暖化対策地域協議会などが後援して行われたものです。

いちのせき市民活動促進会議インアーチ(小野仁志代表)が主催した大町では、「新鮮館おおまち」前にキャンドルのクリスマスツリーが作られたほか、空き店舗3店を利用したキャンドル空間、協力店舗前の通りにろうそくを並べたキャンドルストリートなどを展開。影絵の上演や女性コーラスによるクリスマスキャロルの演奏なども行われ、買い物客らはキャンドルの明かりが作り出す美しい光景に、足を止めて見入っていました。

NPO法人グリーンハート(高橋利巳代表)が主催した市役所本庁舎前では、2000個のキャンドルが噴水池に置かれました。一年で最も夜の長い冬至のひとつ、キャンドルの明かりにほのかに映し出された市役所庁舎を背景に、辺りには幻想的な雰囲気が広がり、訪れた人はじっと眺めたりカメラに収めたりしながら楽しんでいました。

「100万人のキャンドルナイト」は夏至と冬至の日に、午後8時から10時までの消灯を呼びかけ全国一斉に行われているイベント。「でんきを消して、スローな夜を。」をキャッチフレーズに、今回は全国445カ所で行われました。市内では17年の冬至から催されています。

にぎやかに絵札を探して

花泉図書館新春かるた会

花泉図書館主催の「新春かるた会」は1月6日、花泉総合福祉センターで行われました。園児、小学生の5人が参加し、花泉の歴史や自然を紹介した手作りの「花泉かるた」や「日本昔話かるた」、「ジャンボかるた」でお正月の遊びを楽しみました。

かるたを囲んだ子どもたちは、読み手の声と同時に絵札を素早く取り合い、同時のときはじゃんけんで勝敗を決めました。和室いっぱい広げたらジャンボかるたでは、子どもたちはにぎやかな声とともに走り回って絵札を探し、「友達と遊べて楽しかった」と笑顔で話していました。



from HANAIZUMI 花泉

地域の人が作った「花泉かるた」などを楽しみました

from DAITO 大東



貴重な書の資料から書道家芦東山に触れた講演会

書道家東山に思いをさせ

芦東山記念館主催講演会

芦東山記念館が主催する講演会は12月20日、同館を会場に催されました。盛岡市在住の書家、南奎雲さんが「岩手の先人に学ぶ」と題して、書道家でもあった芦東山について、功績を交えながら講演しました。

南さんは新渡戸稲造や後藤新平など岩手県ゆかりの先人の書を紹介しながら、「芦東山は刑法学者だけでなく、書道家としても傑出していた」と話し、書道を通じた教育の大切さを伝えていました。参加者は、記念館に展示されている貴重な資料から、書道家としての東山に思いをさせていました。

面白かったよおもちつき

川崎保育園で小正月行事

小正月行事に合わせた川崎保育園(菊地節子園長、園児109人)の「もちつき会」は1月11日、園児の祖母らの協力の下行われました。

うっすらと雪が積もった玄関先に出た年長児たちは、白の周りを取り囲み「よいしょ!よいしょ!」と掛け声を上げながらもちつきを見学。最後は子どもたちが代わる代わる千本ぎねでもちをつきあげました。一方、年中児たちはホールでミズキにまゆ玉をならし、紅白のかわいらしい花をたくさん咲かせました。もちはお雑煮にして食べられましたが、自分たちでついたもちの味は格別だったようです。



from KAWASAKI 川崎

千本ぎねを使ってもちつきを体験した園児たち

from HIGASHIYAMA 東山



真剣な表情で筆を運ぶ子どもたち

新年の抱負を筆に込めて

東山地域書き初め揮毫会

東山地域書き初め揮毫会は1月10日、松川公民館で行われ、町内小中学校から37人の児童・生徒が参加しました。今年で30回目を迎えた揮毫会は、東山地域の新春恒例行事として定着。参加者は限られた時間内に新年の抱負を筆に込め、「元旦」や「平成」、「春風」などお正月らしい作品を見事に書き上げました。

終了後審査会が行われ、自治区長賞に伊藤千華さん(東山中2年)、公民館長賞に佐々木英理さん(同)が選ばれました。提出作品は2月4日まで、松川公民館、田河津公民館、東山支所の順に巡回展示されることになっています。

地場食材で新たな料理を

農村の味伝承活動で学ぶ

室根生活研究グループ連絡協議会(小野寺久美子会長)が主催する農村の味伝承活動は12月12日、室根保健センターで行われました。

コメと牛乳を使った料理作りをテーマに32人が参加。会員がそれぞれ講師を務め、黒糖ぶかし、かぼちゃグラタン、お米プリン、かぼちゃポタージュ、カッテージチーズの5品を調理しました。

地場の食材を使い栄養価もたっぷり。熱心に取り組み、コツを習得した参加者は「手軽にできるので、孫のおやつに作りたい」「おいしいし、ぜひ家でも作りたい」と自信に満ちた表情で話してくれました。



from MURONE 室根

説明をよく聞きながら料理のコツを学ぶ参加者